

コラム① ごみを減らして家計と地球を守ろう！！

(ごみ会議委員 K.N)

燃えるごみの年間収集回数は103回（令和4年度）です。

皆さんは、ごみ袋の購入に年間いくら使っているか想像したことはありますか。

仮に1回の収集に1枚の袋でごみを出した時に、ごみのサイズによってどの位の金額の差があるかを表にまとめてみました。

袋のサイズ	容量	金額 (10枚一組)	1年間の金額 (1枚排出×103回)	5年間の金額 (1年間×5)
ミニ袋	5ℓ	70円	721円	3,605円
小袋	10ℓ	150円	1,545円	7,725円
中袋	20ℓ	300円	3,090円	15,450円
大袋	30ℓ	450円	4,635円	23,175円
特大袋	40ℓ	600円	6,180円	30,900円

気候変動や地球環境が問題になっている昨今、食品や生活用品なども値上がりしています。

ごみを減らすことで、地球にも家計にも優しい暮らしがあるはずです。

例えば



1年間で1,030ℓのごみ減量になり、1,545円分経費も減ります。

5年間で5,150ℓのごみ減量になり、7,725円分経費も減ります。

ごみ袋の費用だけでなく、**10ℓ分のごみ減量を意識すること**で、ものを大切に使うようになったり、無駄な買い物しなくなったり、容積が少なくて安い詰替品を選ぶ習慣がついたり、大きな節約になります。

ごみの減量は、節約だけでなく不思議と日々の暮らしを豊かにすることにも繋がります。

今日からできる取組

- ・かさばるプラごみを始めからもらわない。(詰替用の活用、エコバッグ等)
- ・マイボトルを使おう。
- ・生ごみはコンポストなどで堆肥にしよう。
- ・フリマアプリやリサイクルショップを活用しよう

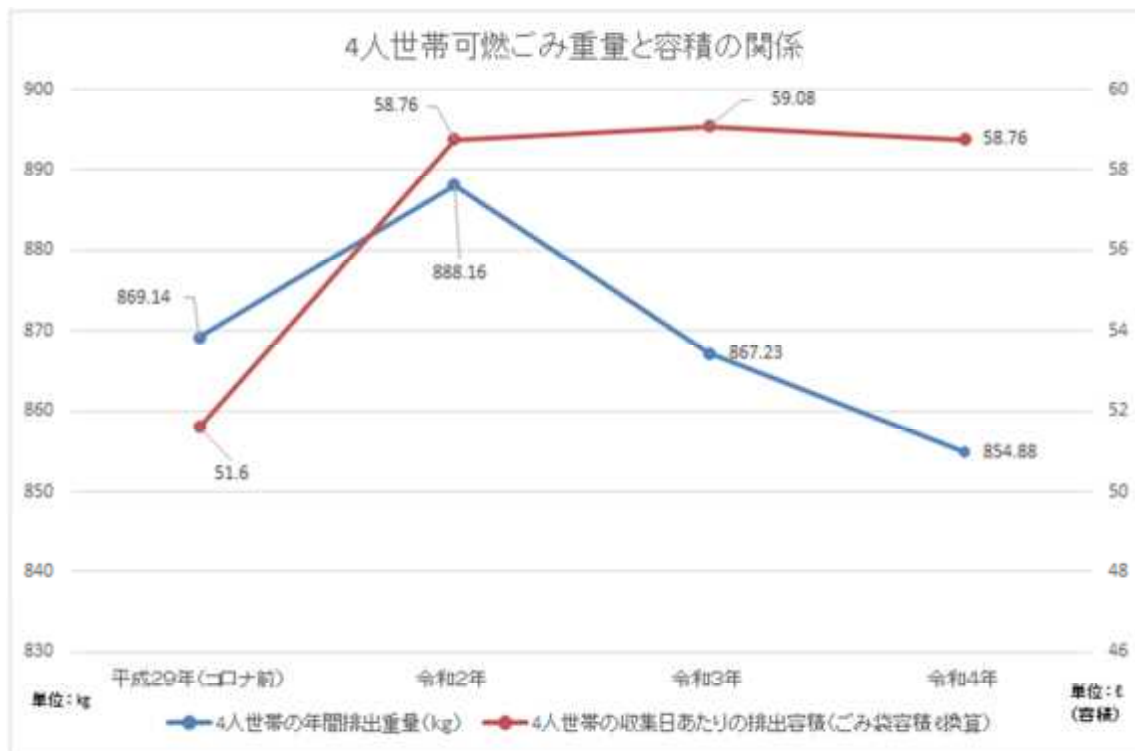
コラム② データで見るコロナ禍でのごみの変化

(あきる野ごみ会議 事務局)

先のごみ会議委員の記事をもとに「**実際にあきる野市で出ているごみ量**」の推移をコロナ前（平成29年）と直近の3年間（令和2～4年）とで比較してみました。

イメージが沸きやすいように、可燃ごみの家庭排出分の4人世帯の排出重量と容積を計算しています。

計算式：(年間収集可燃ごみ重量÷人口×4人、年間販売ごみ袋量×容積÷収集日数÷人口×4人)



4人世帯で可燃ごみ年間の排出重量は、直近で854kgでした。(コロナ前より14kg減量)

1収集日あたりの排出容積は約60ℓで可燃大袋2つ分です。(コロナ前は約50ℓで、大袋1、中袋1)
ごみ重量はコロナ前よりも減っていますが、排出容積はコロナ前よりも増えています。

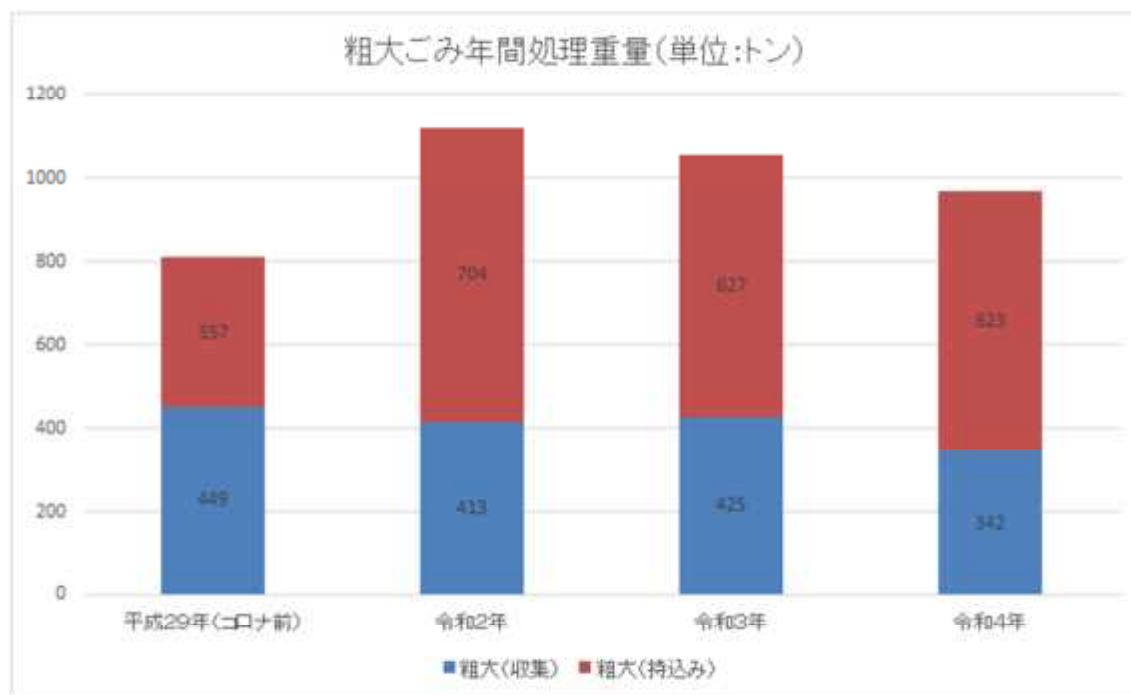
これは、通販・テイクアウト利用が定着しプラスチック等の容器包装が増えたことで、軽くてかさ
が大きいごみが増えているからだと推測できます。

→通販等に入っている包装紙・ケープ紙は雑紙に、かさばる白色トレイは資源になります。

少しでもごみを資源にできればごみの搬入量や容積を減らすことができます。

また、粗大ごみもコロナの前と後で変化が大きくありました。粗大ごみは自粛期間の断捨離の影響で排出量が増えています。

コロナ前、直接搬入は戸別収集より少なかったのですが、コロナ期間で逆転し、現在では戸別回収の倍近い量が直接搬入になりました。



家具は必要としている人に直接受け渡したり、リサイクルショップに売却することで再活用をすることになります。

壊れているわけではないが、ある年齢までしか使わない製品（例：ベビーカーやチャイルドシート、子どもの学習机など）は積極的にリユースに回すことで、買う人も安く買え、ごみに出す人も処分費を抑えられ、粗大ごみの減量にもなります。

最後に、あきる野市のごみの資源化率はコロナ前後でも横ばいの傾向にあります。

	平成29年 (コロナ前)	令和2年	令和3年	令和4年
年間ごみ全体(トン) A	23,024	23,723	22,930	22,415
資源物搬入量(トン) B	4,041	4,130	3,915	3,821
割合 B÷A	17.55%	17.41%	17.07%	17.05%

分別を徹底している人は継続して分別を実施していただいていることが数字でも見えます。一方で、分別を徹底しない人の割合は変わっておらず、資源を可燃ごみ・不燃ごみにそのまま入れているとも見ることができます。

資源物については、通販等の伸びからダンボールの排出量は増加傾向にあるので、引き続き資源物として排出していただきますようお願い申し上げます。

この記事を通じて多くの人が資源とごみの行方に興味を持っていただけたら幸いです。